

## ちいさな証

## 神様の介入がなかったら

脇山 斉

スイス日本語福音キリスト教会会員



主の御名を賛美します。

昔いまし、今もいます神様に感謝したいと思います。

人生の折り返しはとっくに過ぎ、すでに還暦も過ぎましたが、今日まで守られ生かされていることに感謝です。確かに体力は落ち、腰や肩などに痛みがあったり、歯の具合も治療はしたけどまだまだ

調子が悪く、

あちこち万全とは言えません。それでも仕事も与えられ、日々の食べ物も与えられ不自由なく暮らせています。

仕事といえば今の会社に入れた経緯を紹介します。

そこには確かに神様の介入があったと思います。今の会社は9年近くになりやっと一人前のトラックドライバーになってきたように思います。思い返せば入社できたのは今は亡きゲルスタ牧師の口添えがあったからです。牧師が軍隊に行っていた時の上司だった人が、今私が勤めている会社の（今は定年しておられますが）当時は社長だったということで話が進んでいきました。とりあえず試し運転をさせてもらったのですが、何せ当時まだ私は免許は取り立てで、経験不足からか運転技術に難ありと



見られて、もう少し経験が必要と言われたのです。そうなるに練習するしかありません。

しかしどうやって？と置いていたら、またしても牧師から職安（RAV）にお金を出してもらえ算段をしていただきました。そして、無事講習を自動車学校でしかも無料で受けることができ修了書をもらい、入社運びとなりました。そこで、もし牧師の一言がなかったなら、職安からの援助がなかったのなら、と考えると、やはり神様の介入がなかったならと思えるのは私だけでしょうか。まさしく神様のなさることは時にかなって美しいという御言葉そのものです。

また天気のように、ある時は晴れ、雨、雪、そして嵐の時もあるように、人にかかわってくる来る状況というのは平等なんだな—と思います。違いはそこに神様の介入があるかと思えるかどうかということだと思えます。

いま世界を騒がしているコロナウイルスでもある意味平等に襲いかかっています。お金持ちだろうが、有名人だろうが、クリスチャンだろうがそうでない人々にもです。この後、イエス様の福音は世界中に広まっていく、またそうなるに確信しています。

つい先日一人の姉妹が天に召されました。闘病生活の中でも明るい方で、笑顔の素敵な姉妹でした。この世ではもうお会いできないけど、天国に行った時に主の身許でお会いできるのを楽しみにしています。



私の好きなアッペンツェルにて